

●令和3年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「税の意味」

【学校名・学年】西宮市立西宮高等学校・1年

【氏名】高岡 直史

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

小学校や中学校の教科書の裏表紙にはこんな記載がある。私は小学生の頃、この内容画よく分からず、「ただで教科書がもらえる」という認識だった。また、税金とは何なのか、その必要性も分からなかった。ただ、自分のお金が国に取り上げられているという悪いイメージは持っていた。

さて、まず税金とは、国民の生活を支えるために国や地方公共団体が使う財源で、私たちのお金から徴収される、いわゆる「会費」のようなものだ。そして税金は日常のあらゆるところで使われている。その例としては、医療費の7割負担や、警察、消防の出動、先ほどの教科書などが挙げられる。この事実を知ったとき、税金への良いイメージを持てた。実は、私たちはその存在にとっても助けられているのだ。

しかし、世論調査では、税に対する国民の印象としては、6割が「負担感」、4割が「強制的なもの」と義務的に徴収されるものであるという意識が強いことがこの調査から明らかになった¹⁾。また、租税に対する関心は非常に高く、9割にものぼる。しかしその一方で、約4割の人が税金に関する知識が「あまりない」と答えている。これに対して私は、関心があったとしても、知識がなければ誤解が生まれて、税金をより負担に感じてしまうと思う。よく所得税への不満が多いと耳にするが、その不満はこれに関係していると考えられる。たしかに懸命に働いて得た収入を少し取られるというのは私も不満を抱くかもしれない。だが、自分も税金によるサービスを受けているのだから、その相応の対価は支払って当然だと思う。

また、自分の利益を最優先に考えて、税を納めない、脱落をする人もいるが、税金はいわば、国民全員の「共有財産」であるから、そういう人は社会の一員としての自覚が全くないのだと私は思う。

次に、税金がなくなればどうなるか知っているだろうか。医療費が自己負担になったり、警察、消防の出動が有料になったりする。特に警察が民間企業になると、高額の通報や依頼ばかりに出動するので、街の治安は悪くなる。私たちが犯罪に巻き込まれる危険性が低いのは、税金による公共サービスの充実のおかげであると思う。

このように、税金は社会を動かす原動力のようなもので、なくてはならないものだと思う。万が一その仕組みが壊れたとき、その社会は機能が停止してしまう。そうならないためにも、私たちは税金を納めるという形で社会に貢献していかなければならない。これからの日本を生きる後の世代のためにも、私たちは税金を払っていくべきだと私は思う。

1) 株式会社日本総合研究所「租税に対する国民意識」平成29年3月

URL <https://www.tax.metro.tokyo.lg.jp/report/material/pdf/h2903/02/zenbun.pdf>